PureFlow　GSX

NF7101－S001A
PureFlow GSX ソフトウェア
Ver.1.3.3
リリースノート

初版

2013 年 9 月 9 日

アンリツネットワークス株式会社

・製品をご使用になる前に本書を必ずお読みください。また，本書は製品とともに保管してください。
・予告なしに本書の内容を変更することがあります。
・許可なしに本書の一部又は全部を転載・複製することを禁じます。

管理番号：NF7101-W205J-1.0

目　次

1　はじめに

このリリースノートは，PureFlow GSX NF7101-S001A ソフトウェアについての最新情報を提供するものです。

本書では，以下の題目について説明します。

・Ver.1.3.3 でサポートする機能

・Ver.1.3.3 で追加・変更した機能

・Ver.1.3.3 で解消した不具合

・Ver.1.3.3 の制約事項

・Ver.1.3.3 の制限事項

・取扱説明書 正誤表

制約事項とは，装置の動作や性能を制約するものであり，仕様として位置づけられるものです。

制限事項とは，装置の動作や性能を制限するものであり，今後のリリースで修正予定であるものです。

２　Ver.1.3.3 でサポートする機能

Ver.1.3.3 でサポートしている機能は次表のとおりです。

	機能項目		PureFlow GSX(NF7101A)	Ver.1.3.3	Ver.1.3.2 （参考）
1	制御可能帯域幅		10 kbit/s から 10 Gbit/s	○	←
2	シナリオ	最大シナリオ数	40,000	○	←
		シナリオ種別	Discard（廃棄）シナリオ	○	←
			Aggregate（集約）シナリオ	○	←
			Individual（個別）シナリオ　※1	○	←
		ピークレート	送信ピークおよび平均レートを計測　※2	○	←
3	最大シナリオ階層		8 階層	○	←
4	最大フィルタ数		40,000	○	←
5	最大ルールリスト数	グループ	1024	○	←
		エントリ	512 ただしグループ×エントリ合計で 10,000	○	←
6	最大フロー数		1,280,000	○	←
7	インタフェース	Network ポート	SFP/SFP+　×2	○	←
			10GBASE-SR	○	←
			10GBASE-LR	○	←
			1000BASE-SX	○	←
			1000BASE-LX	○	←
			1000BASE-T	○	←
		Ethernet ポート	100BASE-TX　×1	○	←
		コンソールポート	RS-232C（RJ45）	○	←
8	フロー識別	Bridge-control フィルタ	宛先 MAC アドレスが 01-80-C2-00-00-XX であるパケット	○	←
		Ethernet フィルタ	Ethernet Type/Length	○	←
			VLAN ID, CoS, 2 レベル VLAN ID, 2 レベル CoS,	○	←
		IPv4 フィルタ	VLAN ID, CoS, 2 レベル VLAN ID, 2 レベル CoS, 宛先 IP アドレス, 送信元 IP アドレス ToS, プロトコル, 宛先 TCP/UDP　ポート番号 送信元 TCP/UDP　ポート番号	○	←
		IPv6 フィルタ	VLAN ID, CoS, 2 レベル VLAN ID, 2 レベル CoS, 宛先 IP アドレス, 送信元 IP アドレス ToS, プロトコル, 宛先 TCP/UDP　ポート番号 送信元 TCP/UDP　ポート番号	○	←

	機能項目		PureFlow GSX(NF7101A)	Ver.1.3.3	Ver.1.3.2 （参考）
9	QoS 設定		8 段階の優先度，最大，最小レート(10 kbit/s から 10 Gbit/s)，バッファ量	○	←
10	最大パケット長	Network ポート	2048 byte	○	←
			10240 byte	○	←
		Ethernet ポート	1518 byte	○	←
11	ネットワーク管理		Ethernet ポート経由	○	←
			Network ポート経由	○	←
			Telnet, SSH, RADIUS	○	←
			SNTP	○	←
			SYSLOG	○	←
			SNMP	○	←
			プローブエージェント (NF7201A モニタリングマネージャ 2 用)	○	←
			WebAPI	○	←
12	システムインタフェースフィルタ		装置へのアクセス規制	○	←
13	リンクダウン転送機能		経路異常を転送	○	←
14	自動リンクダウン機能		帯域制御エンジンの異常発生時にネットワークポートを閉塞	○	←
15	自動リブート機能		装置異常発生時に自動リブート	○	←
16	ライセンス	帯域拡張	ライセンスなし：1Gbit/s 拡張ライセンス：2Gbit/s, 4Gbit/s, 10Gbit/s	○	←
		シナリオ数拡張 ※3	ライセンスなし：4096 拡張ライセンス：10000, 40000	○	←
		性能	ライセンスなし：通常 フォワーディングスループットライセンス：スループット強化※5	○	←
17	タイムゾーンおよび夏時間設定		システム時刻のタイムゾーンおよび夏時間設定	○	←
18	トップカウンタ機能 ※4		トラフィックを自動分類，自動計測し， 流量が多い通信を表示する機能	○	←
19	バースト送信許容機能		バースト送信を許容することで，スループットを向上させる機能	○	←

※1 モニタリングマネージャ 2 において，Individual（個別キュー）シナリオは Aggregate（集約キュー）シナリオと同等の情報のみ表示されます。個別キューに関する情報は表示されません。

※2 モニタリングマネージャ 2　Ver.1.1.1 において，ピークレートの情報は表示されません。ピークレート情報を表示するにはモニタリングマネージャ 2　Ver.1.2.1 以降をお使いください。

※3 シナリオ数拡張ライセンスは，Individual（個別キュー）シナリオの最大個別キュー数にも反映されます。

シナリオ数ライセンス	なし（4096）	10000	40000
	↓	↓	↓
最大個別キュー数	4096	10000	300000

※4 モニタリングマネージャ 2　Ver.1.1.1 において，トップカウンタの情報は表示されません。トップカウンタ情報を表示するにはモニタリングマネージャ 2　Ver.1.2.1 以降をお使いください。

※5 フォワーディングスループットライセンスのスループット強化は，バースト送信許容を行う場合に効果があります。性能向上率はシナリオ構成やトラフィックに依存しますので，詳細は弊社サポートまでお問い合わせください。

３　Ver.1.3.3 で追加・変更した機能

本バージョンで追加･変更した機能はありません。

４　Ver.1.3.3 で解消した不具合

本バージョンで解消した不具合は次のとおりです。

4.1 【制限事項 22】Port1/1 と Port1/2 が特定メーカの 1000BASE-X SFP および GBIC と接続された状態で PureFlow GSX を起動すると，Port1/2 がリンクアップしない場合がある

PureFlow GSX の Port1/1 と Port1/2 が特定メーカの 1000BASE-X SFP または GBIC と光ケーブルで接続された状態で PureFlow GSX を起動すると，Port1/2 がリンクアップしない不具合を修正しました。

なお，本現象は対向装置の SFP および GBIC が Agilent 社製の場合のみ確認されております。また，本現象が発生した場合，光ケーブルの挿抜で Port1/2 がリンクアップ復旧します。

【対象ソフトウェアバージョン】 Ver.1.1.1 以降

５　Ver.1.3.3 の制約事項

制約事項とは，装置の動作や性能を制約するものであり，仕様として位置づけられるものです。

本書発行日現在，制約事項はありません。

６　Ver.1.3.3 の制限事項

制限事項とは，装置の動作や性能を制限するものであり，今後のリリースで修正予定であるものです。

6.1 【制限事項18】モニタリングマネージャ2のCSVレポートで1/1→1/2と/1/2→1/1のピーク送信バイトが逆に出力される

モニタリングマネージャ 2 の CSV レポートで表示される 1/1 → 1/2 と 1/2 → 1/1 のピーク送信バイトについて，1/1 → 1/2 のピーク送信バイトの値は 1/2 → 1/1 側に，1/2 → 1/1 のピーク送信バイトの値は 1/1 → 1/2 側に出力されます。ピーク送信バイトを確認する際は，それぞれ逆の Port を参照してください。

【対象ソフトウェアバージョン】 Ver.1.2.1 以降

6.2 【制限事項19】”?”または”help”コマンドの表示内容に，”operate”コマンドが表示されない

Administrator モードで”?”または”help”コマンドを入力した際に表示されるトップレベルのコマンド一覧に，”operate”コマンドが表示されません。

ヘルプ表示のみの問題で，”operate”コマンドの入力および実行は可能です。

【対象ソフトウェアバージョン】 Ver.1.2.1 以降

6.3 【制限事項20】ピーク送信レートが最大4,294,967,295 [bps]までしか表示されない

show scenario info，show scenario info summary コマンドで表示されるピーク送信レートの最大値が 4,294,967,295 [bps]までとなっています。それを超える値は 0 [bps]にロールバックした値が表示されます。平均送信レートには正しい値が表示されます。

Scenario Rate Information
Recent interval Tx peak　　: 1360299780 [bps]　←　最大値　4,294,967,295[bps]
Recent interval Tx average　: 5655267076 [bps]　←　最大値 10,000,000,000[bps]

なお，本問題はshow scenario info，show scenario info summary コマンドのみで，モニタリングマネージャ 2 で表示されるピーク送信レートは正しい値が表示されます。

【対象ソフトウェアバージョン】 Ver.1.2.1 以降

6.4 【制限事項21】monitor rateコマンド 無限回指定実行中に強制切断すると，再接続した端末に表示結果の続きが表示され続ける場合がある

telnet 接続から monitor rate コマンドの無限回指定（回数に 0 を指定，または回数指定なし）を実行中にターミナルソフトウェア側で強制終了（ターミナルソフトウェアウィンドウ上の「×」ボタンを押す等）を行うと，CLI セッションを一つ占有し続けます。CLI セッションの占有を解除するには装置の再起動が必要になります。

また，この状態から再び telnet 接続を行うと，再接続した端末に monitor rate コマンドの表示結果の続きが表示され続ける場合があります。再接続した端末に表示される monitor rate コマンドの表示結果は CTRL-C で止めることができません。

monitor rate コマンドの無限回指定実行後の telnet 接続終了は CTRL-C で monitor rate を止めてから，exit/logout/quit コマンドで終了してください。本現象は SSH 接続では発生しません。

なお，monitor rate コマンドの回数指定およびその他のコマンド実行中にターミナルソフトウェア側で強制終了を行った場合は，オートログアウト機能により CLI セッションは自動的に開放されます。

【対象ソフトウェアバージョン】 Ver.1.1.1 以降

6.5 【制限事項23】Networkポート経由で，ターミナルウィンドウへの貼り付けにより複数行のCLIコマンドを実行すると，コマンドが失敗する場合がある

Network ポート経由の telnet 接続から，ターミナルウィンドウへのテキスト貼り付けにより複数行の CLI コマンドを実行すると，コマンドの応答が 1 分間停止した後にエラーとなる場合があります。

本現象は，ターミナルソフトでの 1 行ごとの貼り付け遅延時間設定が短い（1 秒以下）場合に発生しやすくなります。SSH 接続でも同様です。

Network ポート経由でのコマンド実行は，前コマンド完了後のプロンプト表示を確認してから，次のコマンドを入力するようにしてください。

【対象ソフトウェアバージョン】 Ver.1.2.1 以降

7　取扱説明書 正誤表

取扱説明書の正誤表は次のとおりです。

7.1　取扱説明書（NF7101-W002J）

版数	ページ	訂正内容
初版～ 第 3 版	1-6	SFP モジュールの形名と種別の組み合わせに誤りがあります 形名　種別 誤　種別 正 NY02003A　1000BASE-SX　10/100/1000BASE-T NY02004A　1000BASE-LX　1000BASE-SX NY02005A　10/100/1000BASE-T　1000BASE-LX

7.2　取扱説明書コンフィグレーションガイド（NF7101-W004J）

版数	ページ	訂正内容
初版～ 第 3 版	8-12	誤：「最大帯域 (peak_bandwidth)」の「省略時：最大帯域制限なし」 正：「最大帯域 (peak_bandwidth)」の「省略時：1Gbit/s」
第 2 版～ 第 3 版	13-5	誤：「収集周期」の設定値「10 分」 正：「収集周期」の設定値「5 分」
第 2 版～ 第 3 版	13-5	誤：set topcounter config interval time 10 正：set topcounter config interval time 5

8　お問合せについて

本書の内容および本製品に関するお問合せにつきましては，ご購入先または弊社ホームページよりお願い致します。

アンリツネットワークス株式会社ホームページ

http://www.anritsu-networks.com/